

平成 14 年度 第 5 回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成 15 年 3 月 13 日 19:00～20:30

市民活動サポートセンター

出席委員 11 名……新井、水谷、安倍、飯島、飯塚、今城、江口、遠藤、岡本、松尾、百瀬
事務局 5 名……YMCAよこすかコミュニティサポート 田口、高村、神山
市民生活課 山田

1 報告事項

次第に沿って報告を行った。第 4 回会議録については、一部訂正することとした。

2 審議事項

提案どおり承認した。

[意見概要]

第 4 回運営委員会会議録について

(水谷委員)

- ・ P4 の「活動状況を公開する義務はある」とした私の発言は、市民がその団体の公益性、社会性を判断できるよう、団体側が自主的に正直に情報を公開し、活動の透明性を高めるよう努める必要があるという意味で発言した。市民活動団体の公益性については、当然のことながら、行政が判断すべきものでないという考えを持っている。

(事務局)

- ・ 誤解のないよう訂正する。

利用状況について

(事務局)

- ・ 15 年度分のロッカー、レターケースの利用団体の募集をしているが、今日現在で、ロッカー大 30、小 51、レターケース 71 の申請が出ている。

利用者ミーティングについて

(事務局)

- ・ 利用者ミーティングは、これまで議事録をとっていたが、記録すると発言しにくくなることに配慮し、今後は、今日の資料のような形で内容の概略をまとめることとしたい。

(江口委員)

- ・ 概略をまとめた方が内容を理解しやすい。参加者が発言しやすいことが一番大切である。

(今城委員)

- ・ 形はこれで良いが、他の団体に役立つようなこと、サポートセンターの運営に反映できたこと、課題などをまとめ、必要に応じて適切に処理し、ホームページやメールなどで知らせていくべきである。

(松尾委員)

- ・ 情報誌等で知らせていくのが効果的である。

のたろんフェア2003について

(飯塚委員)

- ・はじめて委員長を務めたが、事務局がよく動いてくれ、大成功だったと思っている。各団体が一生懸命やっているのがよくわかり、感動した。

(今城委員)

- ・スタンプラリーに対応するため、各ブースだれかが常駐しなければならなかったのは大変だったが、来場者も多く今までで一番良かったと思う。

(事務局)

- ・全体を理解している人が年々多くなっており、運営がしやすくなった。参加団体からは今後も同じ時期に開催したいという声が圧倒的に多かった。

(新井委員)

- ・時期については毎回いろいろ意見がでるが、結局、同じ時期に落ち着いている。

(飯塚委員)

- ・2月開催で定着してきているので、このままで良い。

(新井委員)

- ・フェア報告会で、説明会に来なかった団体から、一方的に、対応が不十分だとの意見が出た。来年はもう少し丁寧に対応するとスタッフが謝っていた。謝る必要はないと感じ、団体の認識間違いであることを指摘し、軌道修正をした。フェアの目的を認識していない人が不満を述べる傾向がある。目的を確認し合うのは大切なことである。

(百瀬委員)

- ・説明会に出ても会員にきちんと説明していないところもあった。参加する団体側の問題である。

(飯塚委員)

- ・フェアの参加者募集では、目的を明示しているにもかかわらず、理解していない人もいた。スタッフも落ち度として謝るのではなく、認識が間違っていることをはっきり言った方が良い。

(水谷委員)

- ・スタッフとしては、そう回答せざるを得ない部分もある。実行委員や運営委員から指摘する必要がある。

(百瀬委員)

- ・天候が悪いとどうなるか心配ではあるが、天候に恵まれ、屋外もあり、盛況でよかった。準備、当日も、短時間でスムーズに運営されていた。賞品をもらいたいだけの人もいたと思うが、スタンプラリーのおかげで、各展示を見てもらうことができた。

平成15年度運営委員について

(事務局)

- ・10名募集のところ14名の応募があり、応募動機と、年齢、性別、活動分野にかたよりが無いよう新井さん、水谷さん、市民協働推進担当課長の3名で選考し、決定させていただいた。

(松尾委員)

- ・応募して委員になっても、あまり出席しない人がいる。何のために応募したのかと思う。次期委員にはそういうことのないよう望みたい。選考されたということを伝えてほしい。

(飯島委員)

- ・欠席するなら、場合によっては代理を出してもらっても良いのではないかな。

(松尾委員)

- ・今までの経緯がわからない人が代理出席し、発言するのも困る。

(新井委員)

- ・運営委員会委員は、基本的には個人として参加し、運営に携わっている。

(百瀬委員)

- ・運営委員に応募して発言しようという人が来ないことはないだろう。委員数も 13 名になり、欠席しにくいのではないか。

市民公益活動団体について

(新井委員)

- ・クロスロードとはどのような活動を行っているか。

(事務局)

- ・国際交流協会で行っている日本語会話サロンの実施団体の一つで、外国人に日本語を教えている。

サポートセンターでのチラシ配布について

(江口委員)

- ・チラシ配布ができることについて、いろいろな団体にお知らせして良いか。

(事務局)

- ・ぜひお願いしたい。

その他

(松尾委員)

- ・利用が多いためか、印刷機の調子が悪いことが多いので、対応をお願いしたい。

(新井委員)

- ・印刷機は、ある意味、サポートセンターの生命線なので、良い状態にしておくよう努めてほしい。

(事務局)

- ・来年度、新規購入を検討している。

(江口委員)

- ・扉がいつも半開きになっているロッカーがある。危ないので、注意した方が良い。大型裁断機の台の安定が悪く心配である。また、裁断時にレバーを上げるとガラス面にぶつかりそうになり危険である。対応をお願いしたい。

(事務局)

- ・必要な対応をする。

(新井委員)

- ・サポートセンターオープン前から約 4 年間、意見を活発に述べる委員が集まり、風通しの良い委員会を運営できた。サポートセンターができたことで、今まで見えなかった団体の存在を知ることができ、フェアなどを通して団体間の交流も生まれている。今まで皆さんと運営でき、本当に良かったと感じている。

(松尾委員)

- ・運営委員は、地域サポートセンターも含め、まず、利用することである。多くの人が来ているのを見ると、活用されるようになったことを実感し、感無量である。

(安倍委員)

サポートセンター開設を第 1 ステップとした市民活動促進指針を策定するための市民活動支援策研究会に参加してから 5 年が経過した。うまい具合に短期間に開館でき、運営委員や利用団体の意見を受け、進歩してきた。多くの人に知られるようになり、うれしく思う。今後も側面から支援をさせていただきたい。

(水谷委員)

スタッフの努力でこれまで発展できてきたと思う。今後も、共に、良い方向に持っていきたい。

(新井委員)

スタッフは、問題を抱え込まずに、運営委員会にどんどん出してほしい。

(岡本委員)

運営委員会に楽しく参加できた。「公益」という表現にこだわっている。謙虚な人は自分たちの活動を「公益」とは言わないと思う。3 人ではじめた活動でも公益になり得る。人が生き生きと過ごすためには、趣味でも公益だと思っている。声高に公益、公益と言わないでほしい。

以上